

令和 5 年度

事業所名 : グループホームつどい花園町

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600336		
法人名	有限会社つどい		
事業所名	グループホームつどい花園町		
所在地	〒024-0035 北上市花園町2丁目2-25		
自己評価作成日	令和5年10月23日	評価結果市町村受理日	令和6年2月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの要望に応えられるよう心掛けている。また、ご自宅で暮らしていた個々の生活に合わらるよう支援している。
手作りの食事を提供し、家庭と同様な温かい雰囲気に行けるよう心掛けている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR北上駅から徒歩10分程の中心市街地に位置する開設5年目の事業所である。近隣には、同法人が運営する二つの高齢者福祉事業所があり、周辺にはデパート、ホテル、医療機関、商店街、幼稚園、小中学校の社会資源にも恵まれている。協力医療機関である総合病院に加え、日常的には契約クリニックの訪問診療医と訪問看護事業所、訪問歯科医との連携が確立され、医療が円滑に受けられ家族の安心度も高い。開所して間もなくコロナ禍となり、外出や交流を制限せざるを得なかった時間が長かったが、基本理念である「まいにち たのしく ほがらかに ～笑顔の絶えない思いやりのある家をめざす～」の実現に向け、心にゆとりを持ってやさしい声かけを行動指針と定め、小規模施設のメリットを活かした職員間のコミュニケーションを大切にする風通しの良い事業所として、職員一丸となり和気あいあいとした家庭的な支援に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年11月17日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名 : グループホームつどい花園町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ、実践に繋げるよう職員一同心掛けている。	開設時のメンバーが話し合って決めた基本理念の「毎日たのしく ほがらかに 笑顔の絶えない思いやりのある家をめざす」をホール内に大きな文字で掲示し、その実現のため、「心にゆとりを持ち、やさしい声かけ」を、行動指針に定め、毎月の職員会議で支援を振り返りその実現に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	特に活動なし。	開設後コロナ禍で地域との関係作りが困難な状況であったが、運営推進会議委員の町内会長から回覧板の回覧や再開する地域行事への誘いがあり、交流が図られつつある。ボランティアの受け入れや、町内会活動への参加を検討している。	事業所の運営のためには、地域の理解と協力は不可欠な要素の一つです。利用者が地域の一人としてより豊かな生活を送るため、地域の事業所としての専門知識の提供、そして地域からの協力を得られる関係作りに努められることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流が開設当時から少なく、近所の方々からは認知症への理解は得られていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は、6月から対面にて運営推進会議を行っています。意見などを聞いて反映出来るところは活用しています。	近隣の法人が運営するグループホームと合同で、行政区長(町内会長と兼務)、地域の有識者、市役所長寿介護課担当職員、訪問看護事業所、家族代表をメンバーとして、8月から対面で開催している。各事業所の運営状況の報告に留まらず、委員からは職員の研修参加状況やBCPの作成状況などについての質問が出され、活発な委員会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員へも参加してもらい、2カ月に一度の運営推進会議録を送付し、意見をいただいている。	市役所長寿介護課担当職員が運営推進会議に出席し、顔の見える関係が構築されており、必要に応じお互いメールや電話でやり取りが円滑にとれる良好な関係にある。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつどい花園町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スピーチロックに関しては目標を掲げ、日々ゼロを目指すよう心掛けている。勉強会も開き身体拘束ゼロを目指している。	身体拘束適正化委員会は、毎月職員会議終了後に開催し、支援の振り返りを行っている。身体拘束に係る職員研修は、管理者が資料を作成し年4回開催している。現在、無断外出防止のため、日中は玄関にセンサーを使用している。夜間は防犯上の理由から施錠している。また、夜間転倒亡のため、家族と本人の同意を得て、4人がベッドセンサーを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より、職員間で声掛けを行い、虐待防止に心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護が必要な入居者様は現在なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、わかりやすく説明できるよう心掛けている。また、入居後も不明な点やご意見等には説明し、回答している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活で入居者様から、要望があればノートへ記入し、職員間で共有している。また、面会時に家族様からご意見があれば、職員間で相談し共有している。	家族の思いの把握や意見をいただく一助として、毎月利用料請求書の郵便物に、居室担当者が写真入りの生活の様子を伝えるお便りを作成し届けている。また、通院付き添いや諸手続き等で来所した時の会話や日常の電話連絡で確認したものを、連絡ノートに残し職員間で共有し支援に役立てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を開き意見交換をしている。	毎月の職員会議で職員の支援に関わる思いや提案を吸い上げるように、管理者は努めている。管理者は日常的に職員とのコミュニケーションを大切にして職員の声を受け止め、勤務体制の見直しなどの業務改善に結び付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制の見直しをし、各自特性を生かし、勤務表作成を行っている。職員間での協力をし、モチベーションも維持できるよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの経験に応じて、利用者に向けたケア方法を共有したり、指導したりしている。研修会への参加は新型コロナウイルスの影響であまり参加できていない。現在必要な事などは勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個々での交流はあるが、施設訪問等を行っていない。 会社内では、他事業所と情報交換を行っている。		

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や見学時には、親しみやすい態度・表情で接し、要望等を聴けるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にお話を聴く機会を作り、不安等を傾聴できるように心掛けている。いつでも相談できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学、事前訪問・申込時に現在の状況・不安や困っていることを伺っている。また、施設対象でないような場合は、他施設情報を提供し、安心して頂けるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人に合わせた支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	申込の際に今までの生活状況を伺っている。受診は家族様の協力のもと支援している。また、外出、外泊に関してはコロナウイルスの影響で実施できていないが、ご自宅のみの外出、外泊を実施しているご入居者様はいらっしゃる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少しの時間での面会になっている。今は、希望がないために、リモート面会はありません。	入居前の生活歴や家族からの情報で馴染みの人や場を把握し、途切れない様努めてきたが、コロナ禍で面会や外出の制限が続いたこともあり、疎遠になっている状況にある。入居後に巡り合った訪問看護事業所の看護師や訪問医師、理髪業者が新たな馴染みに変わってきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置をお話が合う方同士になるよう配慮している。楽しくお話ができるよう職員が入ることもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了したご入居者様のご家族様がゴミ箱用の広告を寄付してくださっている。また、同入居者様の身内の方が床屋さんで入居当時から退所された現在も継続して、散髪をお願いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに意見を伺うよう心掛けている。困難な場合は、日々生活している中で把握できるよう心掛けている。	ことばで思いや意向を表せる方は約半数で、自分の思いをうまく伝えにくい方には、入居前の生活歴の確認と日常の関わりの中から発した言葉や表情、行動から読み取り連絡ノートに記入し、職員間で共有し更に確認し合い、職員の一方向的な捉えにならないように留意している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居された際に、ご自宅で使われていた寝具等があれば持参して頂いている。また、ご家族の写真等も自室へ飾っている方もいらっしゃる。契約時に生活歴等をお伺いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活で一人ひとりの言動等を観察し、把握できるよう努めている。また、気づいたことは職員間で共有できるようノートに記入している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつどい花園町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新の際は、本人・家族の他に必要なのは主治医や訪問看護からも意見を聞いている。また、職員からは、会議にて意見を聞きケアプランを作成している。	入居前に情報収集を行い、入居後の観察期間を経て事業所で作成するチェック表で確認している。職員会議で各職員の見立てを確認し、計画作成担当者が3カ月の短期目標と6カ月の長期目標の原案を作成している。本人、家族の同意を得て作成し、職員間で共有し支援している。状況に応じ、期間の短縮や延長もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録、申し送り、利用者ノートへの記載で共有し、ケアプランに反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に沿えるよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事には積極的に参加できるように心掛けてはいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	身体状況を把握し、受診の際はご家族様に現状をお話している。必要があれば、施設内での様子を文章作成し、お渡しして頂くようお願いしている。状況に応じて訪問診療へ移行している。また、血圧表等もお渡ししている。	かかりつけ医を継続して利用している方は1名で、家族同行で受診している。毎週訪問看護師が来所し、月1回の訪問診療を多くの方が利用している。軽い精神症状が表出した場合の対応も行っており、症状が進行した場合には、家族とも相談し専門医への通院に切り替えている。現在、歯科は対象者がいないため休止している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時や不明・不安時は、随時訪問看護へ連絡や相談し、助言をいただいている。		

事業所名 : グループホームつどい花園町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病室訪問している。主治医や病院看護師から状況確認している。また、退院の際は事前に退院カンファレンスを開き留意点を相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の在り方について伺っている。入居から数年経っている方や、ご家族様が遠方にいらっしゃる方もいるため、再度、お伺いした。	看取り指針を作成し職員間で共有し、訪問看護師と訪問医師の協力得て看取りまで行っている。当直職員に負担がかからないよう、管理者若しくは計画作成担当者も緊急対応することとしており、看取り後の振り返りも全員で行っている。昨年は1名を看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアル、事故対応マニュアルは作成しており、職員間で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時マニュアルを作成している。消防訓練にて、地域の区長さんに入ってもらう予定であったが、施設のみで訓練を行っている。	年2回避難訓練を実施しており、夜間想定は計画中である。緊急非常通報システムで消防署へ繋がりが、管理者を介した全職員への緊急連絡網も整備されている。現在、事業継続計画(BCP)を策定中である。	夜間災害で、当直者のみの対応には限界があるため、地域との連携が不可欠です。運営推進会議の場を活用して協議し地域からの協力を得る体制を確立するとともに、近隣にある法人の高齢者事業所2カ所との連携を盛り込んだBCPの作成を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に適した支援を行えるよう心掛けている。	排泄は、利用者の居室にあるトイレを使用し、プライバシーの確保に努めている。利用者の尊厳の保持のために、行動指針である「心にゆとりを持ち、やさしい声がけ」を基本に支援している。居室に入る際はノックをし、排泄や入浴介助時には羞恥心に配慮した声掛けやケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話での表情や言葉の強弱等で読み取れるように心掛けている。行動する際に選択して頂くよう会話で工夫している。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホームつどい花園町

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の日は指定しているが、個々の希望に沿って対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力で衣替えや衣類購入をして頂いている。入浴時の衣類準備もご自分で選んで頂くこともある。また、行事レクでお化粧も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年に何度か出前レクとして、地域の飲食店より食べたいものを出前を取り、食べている。他にも郷土料理を行事レクにて提供している。その際、皆さんで準備して頂いている。茶碗拭きも行って頂いている。	献立は利用者の好みや摂取状況を考慮し、2名の選任調理員が作成している。食材は、1週間分業者から届けてもらっている。また、利用者がかつて食べていた郷土料理を献立に入れたり、季節感のある食事の提供に努めている。お手伝いのできる方は、後片付けや食器拭きなどを職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の体調等を観察し、食事の提供している。平均水分摂取量を摂っていただけるよう、牛乳やジュースで飽きないよう工夫し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時、口腔ケアを行っている。就寝の際は、義歯洗浄を行っている。必要に応じて、訪問歯科の協力も得ている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用者は数名いる。日中はオムツ使用者以外の入居者様へはトイレ誘導を行っている。排泄板を確認し、排泄リズムを掴めるよう心掛けている。	排泄チェック表により排泄リズムを把握、見守り、声掛け、誘導を行っている。日中のおむつ使用者は1名、日中リハパンを使用し夜間におむつを使用する人は2人、他の6人は居室にあるトイレで排泄している。夜間の転倒防止のため、4名はベッドセンサーを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や乳製品の提供、バランスの良い食事を提供し、自力排便できるよう心掛けている。また、主治医より下剤を処方して頂き、排便コントロールしている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホームつどい花園町

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は曜日毎で分け時間も決めてしまっているが、仲の良い入居者様同士で入浴できるよう誘っている。又、予定日でなくてもシャワー浴や足浴などを希望があれば応じている。	週3回は入れるようにしている。体調や気分のすぐれない方には柔軟に対応している。広い浴室には特殊浴槽があり車椅子の方も安心して入浴できる体制を整えている。仲の良い人と一緒に入浴したり、職員とのコミュニケーションの場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に合わせ、日中は体操・レクなどに参加し、できるだけ身体を動かして頂くよう声かけを行い、夜間しっかりと休まれるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合は職員で共有・見直しをしている。また、訪問診療を受けられている入居者様は、医師より変更する旨をお話して頂いている。また、副作用がみられた場合は、主治医または訪問看護へ相談・報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味(裁縫・読書)やレク活動(トランプ・カルタ・塗り絵)や散歩を行っている。また、役割として、洗濯物干しや洗濯物たたみ、茶碗拭きを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	マスク着用で散歩や系列のデイサービスへ出向かれる方もいる。	コロナ禍で外出は制約が大きく、家族との外出も少なく事業所周辺の散歩が中心だが、春の花見と秋の紅葉狩りにはドライブで出かけている。インフルエンザなどの感染症も危惧されるが、地域交流にもつながることであり、外出の機会を増やしていきたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様から自分で所持金を管理したいという希望はなく、欲しいものがあればお話して下さる。施設でもご家族よりお金を預かっているため、購入の際はそこから支払いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話は時間帯によるが、希望があれば対応している。携帯電話の持ち込みも許可しているが、使用していないため、施設で預かっている。手紙に関してもいつでもかけるよう便箋と葉書は準備している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームつどい花園町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、ご入居者様と一緒に作成した作品を展示している。	ホール兼食堂と事務室は仕切りが無く広々としており、床暖房・エアコン・加湿器により快適な環境が保たれている。利用者と職員が一緒に作った季節に応じた作品が飾られた共用空間で、利用者は大型テレビを見たり、新聞を読んだり、ゆったりと楽しく生活している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂にはソファを設置している。 また、テレビ、カラオケ、本棚を設置しており、要望に応じて対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具を持参されているご入居者様もいらっしゃる。また、ご家族写真やご自分の昔の写真を持参され飾っている方もいる。	居室にはベッド、タンス、洗面台、トイレ、エアコンが備え付けられ、快適に生活できるよう整えられている。利用者は馴染みの小物や思い出の写真を持ち込み、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床には可能な限り物は置かず、安全に歩行できるよう工夫している。各居室には許可を得て、名前を掲示しご本人でもわかるようにしている。		